

令和3年度第1回豊明市地域福祉計画推進委員会

豊明市いのち支える自殺対策推進本部 議事録

日 時：令和3年12月27日（月）14：00～15：30

場 所：豊明市役所 本庁舎本館3階 会議室1

出席者：11人 欠席者：1人 傍聴者：なし

1 あいさつ

2 議事

(1) 豊明市第2次地域福祉計画・第4次地域福祉活動計画の進捗について

・基本施策の実績について

事務局より説明

○ 質疑応答

(委員)

豊明市は近年外国籍の方が多いと聞いていますが、その方々への情報発信は大きな課題だと思います。その中で、「多言語情報の開設と運営」これについて、来年度も継続ということになっていて、現在のFacebook ページを見ましたが、日本語のみの記事が多く、三言語・四言語に対応している記事もありますが、今後はぜひ外国から来られた方々が日本語と変わらぬ情報が得られるようなご配慮をお願いしたい。

(事務局)

Facebook のページが充実していないとのご指摘でしたが、現在、豊明市は外国人の数が大変増えております。6万9千人程度の人口の中で3千人程度が外国人となってきておまして、近年ですとポルトガル語圏の方と同じぐらいベトナム語圏の方が増えているという状況です。ご指摘のFacebook の内容については、担当課へ意見があった旨を伝えていきながら、今現在もコロナ禍の中で大変苦労されている方々だと思いますので適切な情報が届くように対処していきたいと考えています。

(委員)

高齢者や障がい者の雇用については、喫緊の課題だと思います。さらに、全国的な課題である子どもの貧困対策についてですが、実績と今後の展望については、今年度は「必要な支援に向けた情報収集」を行って、来年度についても同じということだと、まる3年間情報収集をするということになってしまうと思います。また、今年度会議は実施したものの

次年度についても、検討・情報共有を行っていくということだと、市民にはわかりづらいと思います。情報収集だけだと、市民の実感としては不安が残り、伝わらないと思います。そろそろ計画も折り返しとなるので、来年度は具体的なアクションを起こされたほうがよろしいのではないかと思います。

(事務局)

子どもの貧困については、特にコロナ禍においては、ひとり親世帯の子どもの貧困など、社会的課題として大きくクローズアップされています。豊明市はこのコロナ禍において、ひとり親世帯など生活が困窮されているご家庭に対して、まごころサポート便事業を昨年度から重点的に実施しています。事業の内容は、月に1回5千円程度の食料品や生活用品と支援情報を届けます。4か月1クールで、2クールを終えて来年度も実施する予定です。このようなご家庭に、いかに伴走的な声掛けをしていくかというのが狙いです。

多くの自治体で、「物を届ける、お金を届ける」ということはやっていますが、届けるだけではなく、行政からのアプローチを定期的に行いながら声を出していく、あるいは、必要な他の窓口につながってもらう、そういった事業を行ってきました。子どもの貧困については、分野が横断的となり、まだまだ十分でないところもありますが、必要な対策については、一つずつ実施してまいります。

(委員)

豊明消防が尾三消防に移管されたという事情があるのは承知していますが、「計画を作ったのは豊明消防予防課で尾三消防としては計画を引き継いでいない。計画は中止」とあるが、この計画は全体的に本委員会で作成をし、進捗状況を見ているので、これはあくまでも尾三消防へ移管により、中止はできないのではないかと思います。組織機構が改革改定された後、誰がどのように引き継ぐのか、引き継ぐ先がないわけではないと思います。

(事務局)

尾三消防についてですが、「計画は中止」となっておりますが、広域的な会議、みよし・東郷・日進・豊明・長久手圏域により福祉分野での会議を開催しています。その中には尾三消防の方もおり、高齢者の方への防火訪問についてなどの相談もいただいていますので、取り組み自体は現在も継続しております。地域福祉計画の一環として継続していく必要があると思いますので、今後は、ご指摘のとおり計画に反映できるように検討してまいります。

ご指摘がありました調査を継続していくという表現や、尾三消防の体

制が変わって中止という表現については、適切にあらためてまいります。

- ・ 重点施策の進捗について
事務局より説明

○ 質疑応答

(委員)

地域の課題として、コロナのワクチン接種については、障がいのある人への対応などでは、市は期間や場所等いろいろと配慮してくださって、大変受けやすくスムーズだったと保護者の方も大変喜んでいました。

(委員)

あいさつ運動に関して、さわやかDAYとの連携についてですが、前回の時にも申し上げましたが、年2回では前回と全く変わってない。これだけ力を入れてやるのであれば、せめて4半期に1回(年4回)くらい、それも難しければ、交通事故ゼロの日は毎月あるので、それと連携するとか、もっと機会を増やしたほうがいいのではないかと思います。

(事務局)

今年度はさわやかDAYと連携して、年度で2回実施しました。その他の活動も今年度スタートしたところではありますが、私たちの目標も年度で4回程度としており、さわやかDAYが実施されない時期も、別の形で街頭キャンペーンを行いたいと考えています。

- (2) 豊明市いのち支える計画の状況について
事務局より説明

※承認を依頼する内容

いのち支える計画は、令和元年度から5年度までの5年計画です。一方、(1)の地域福祉計画は令和2年度から6年度までの同じく5年計画です。いのち支える計画は孤立・孤独を防いで自殺を予防していくという、本来地域福祉計画の諸施策とは親和性も高く、一体的に議論すべき内容だと考えています。よって今後は、いのち支える計画の計画期間を地域福祉計画と同じ計画期間とするために、1年延ばして令和元年度から令和6年度までに延ばしたいと考えています。

○ 意見

(委員)

基本目標については、現在7人未満ということで、実際には横ばいの状況が続いており、このような数字が今後も続いていくのではないかと

予想されると思います。説明がありましたが、今後については「命を支える計画」という観点から言うと、やはり目標は0であるべきだと。ただ記載の仕方は、0を目指す現実的な数字で7人未満を目指していきたいと市民の皆様には説明されると現実的なのではないかと。いきなり7名と数字が出てしまうとびっくりされるのではないかと思います。

啓発については、コロナ禍のため、かなりの制約があったことは重々承知しておりますが、ウェットティッシュを市役所に配置するということがどのような効果を期待したものなのか。やはり効果はきわめて限定的だったと思います。やはり今後はSNSの利用なども検討してみてもいかがでしょうか。

※計画期間の延長については、承認された

3 その他

※事務連絡を伝え終了した